



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和4年6月30日

7・8月園だより

ベランダに朝顔やゴーヤが元気よく葉っぱを伸ばし、緑のカーテンが広がっています。また園の入り口の花壇には、ラベンダーの花が咲きハーブの香りを放っています。ラベンダーの花言葉は「あなたを待っています」「清楚」だそうです。ラベンダーは香りも強く良い匂いがするので芳香剤代わりに園の玄関にも置いてみました。ラベンダーを摘みたい方にはお分けしますので、職員にお声をかけてください。

さて、先日行われた内科検診では、白衣姿の阿部先生がお部屋に現れた瞬間、次々に泣き出し連鎖反応で全員泣いてしまった0歳児。その後、1歳児担任の「おなかをポンポンするだけ！痛くないからね！」の説明を受けて始めた1歳児のクラスの子どもは一人だけしか泣かず、2歳児以上は誰も泣かずに検診を受けることが出来ました。会話が通じる年齢になり痛くないということが理解でき、先に検診を受ける人の姿を見て見通しがもてたのでしょうか。みんな成長しているなあと感心させられました。また、3歳児になると自分でショートパンツの中にTシャツの裾を入れる数人の子どもの姿も見られ、発達の様子を感じられました。更に4歳児5歳児は検診後の身繕いが自分で出来、5歳児の中には、「診てくれてありがとうございます！」と自分の言葉でお礼を言う姿も見られ、年齢により成長の様子が伺われ嬉しく感じた場面でした。ここで発達過程について考えてみたいと思います。

生後10か月くらいになると「いないいないばあっ！」がわかるようになり、初めは大人がやってくれたことを見ていて、だんだん自分でもやってみようになり、周囲の大人はその様子を見て嬉しく思うものです。また2歳位になると「自我の芽生え期」「第一次反抗期」ともいわれ、よく言われる「イヤイヤ期」を経験します。これは「自分」という存在をことあるごとに確認しようとする顕著な行動です。

- ・「ご飯を食べなさい」→「イヤ！」…「自分で！」と他者に自分を強く主張する
- ・「じゃあ、食べなくていいよ」→「嫌あ〜!!!」…「指示に対する拒否」を示す子どもが嫌がっているのは「ご飯を食べるかどうか」ではなくて「親が指示をする」ということに対してなのです。このような場合、
- ・大人が先まわって次の行動を言葉にしないようにしましょう。
- ・言葉ではなく「次の行動に必要な道具を子どもの視野に入る範囲に用意しておく」など子どもが気付くような支援が有効です。
- ・子どもが気付かない時には、さりげなく二者択一の質問をして選ばせます。

2歳児に限らず、子どもは大人への反抗や自己主張を通して、自分の意思を通せることと通せないことを学んでいきます。反抗を通してどう主張すれば大人を妥協させられるか、自分はどのくらいで妥協すべきかななどの感覚を身につけます。今は、いずれ社会に出て自分以外の人間と関わる時に役立つ基礎レッスン中なのです。